



## 万博の熱気を支部の力に —地方から分析化学の芽を育てる—

森内 隆代

2025年4月13日から10月13日まで、大阪・夢洲で開催された大阪・関西万博は、関西に新たな熱気と活力をもたらしました。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、国内外から多くの人々が集い、科学技術と文化の融合を体感する貴重な機会となりました。分析化学の視点から見ても、持続可能性・健康・環境といった社会課題に向き合う多彩な展示は、私たちの研究が社会にどのように貢献できるかを改めて問い直す契機となりました。この万博の熱気が一過性のものに終わることなく、関西の学術・産業・文化の持続的な発展へとつながることを、心より願ってやみません。

近畿支部では、次世代を担う若手研究者の育成を重要な使命と位置づけ、2007年より「近畿支部夏季セミナー（ぶんせき秘帖）」を開催しています。本セミナーは、学生や若手技術者が主体的に学び、交流する場であると同時に、中堅研究者も寝食を共にすることで、世代を超えた対話と学びが生まれる貴重な機会となっています。参加者にとって、この経験が今後の研究活動や社会での実践に資する気づきや刺激となることを期待しています。また、本セミナーは産業界と学術界の垣根を越えた連携のもとに実施されており、次世代育成の場として大きな意義を有しています。開催にあたっては、「近畿分析技術研究懇話会」の賛助会員企業の皆様から多大なるご支援を賜っており、そのご協力なくしては実現し得ない取り組みです。この場をお借りして、日頃の温かいご支援に心より御礼申し上げます。

2023年3月27日、文化庁が京都へ移転しました。これは明治以来初となる中央省庁の本格的な地方移転であり、地方創生を象徴する出来事として大きな意義を持ちます。しかしながら、依然として首都圏への一極集中は続いており、日本分析化学会においても、支部ごとの会員数には偏りが見られます。地方で学びの基礎を築いた人材が首都圏で活躍することは誇らしく、喜ばしいことです。一方で、地方の教育・研究基盤が弱体化すれば、日本全体の学術力の低下を招きかねないという懸念も拭えません。地方の力もまた、国の科学技術を支える重要な柱である—その思いを胸に、今後も学生教育と分析化学の学術振興に力を尽くしていきたいと考えています。

〔MORIUCHI-KAWAKAMI Takayo, 大阪工業大学, 近畿支部長〕